

機関番号：12613

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19402023

研究課題名（和文）移行経済諸国における多国籍企業とホスト国産業資源のリンケージに関する実証分析

研究課題名（英文）Multinational Enterprises and Industrial Resources in Transition Economies

研究代表者

岩崎 一郎（IWASAKI ICHIRO）

一橋大学・経済研究所・教授

研究者番号：70323904

研究成果の概要（和文）：

本研究プロジェクトでは、旧社会主義移行経済諸国に進出した外国資本や多国籍企業とホスト国経済資源（人的資本や地元企業）の相互リンケージの形態と水準を、企業インタビュー調査や大規模パネルデータに基づいた比較制度論的・計量経済的分析によって解明すると共に、その研究成果に基づいて、ホスト国における外資系企業の定着と当該国国民経済システムとのより緊密かつ適切な産業連関の深化を促進するような諸政策の検討を行った。

研究成果の概要（英文）：

In the framework of the project, we aimed to examine the linkage between foreign capital and industrial resources in host countries focusing on the post-communist transition economies. To achieve this goal, we conducted various empirical analyses using the results from original interview surveys in Hungary and Russia as well as a large-scale panel dataset of Hungarian firms in early 2000s. Basing on the empirical evidences obtained from the progress of the project, we argued possible policy implications to promote settlement of multinational enterprises in the former socialist countries and to deepen involvement of these foreign companies in the national economy of the host country.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
2008年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2009年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2010年度	1,600,000	480,000	2,080,000
総計	13,000,000	3,900,000	16,900,000

研究代表者の専門分野：移行経済論，組織経済学，比較経済体制論

科研費の分科・細目：応用経済学

キーワード：移行経済，多国籍企業，地元産業資源，ハンガリー，ロシア

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究プロジェクトに先立つ2000年代前半において、旧社会主義移行経済圏では、中欧地域を中心に、投下資本の本国引揚げ、企業収益の母国送還、進出企業/工場の規模縮小や他国移転などが相次いだ結果、国際収支の急速な悪化や深刻な産業空洞化現象に直面する国も一部に現れ、これまでのいわば

「受身」な市場経済化戦略で大きな成功を収めてきた移行国政府も、外国直接投資の更なる誘致に負けず劣らず、既進出外資系企業の現地定着を推進するより積極的な産業政策の喫緊性を認知し始めていた。

(2) この点に関連して、当時の先行研究は、外国資本と自国経済との産業的リンケージを深化させる決定的要因として、多国籍企業

現地法人組織内部における自国経営者層の地位向上及び外資系企業と地元企業のメーカー・サプライヤー関係の多様化と効率化を強く勧告した。従って、外国資本定着を促す効果的な政策を立案するためには、これら2点に係る緻密な現状把握が不可欠であった。また同時に、旧社会主義圏での多国籍企業によるホワイトカラー労働者(経営者資源)の雇用政策やサブコントラクター契約を介した地元産業界との相互連関に関するミクロ実証経済学的研究は、その学術的価値の潜在的な高さにも拘らず、驚くべきことに殆ど未踏の研究領域として残されていた。

(3)そこで、本研究プロジェクトの代表者である岩崎は、これまで培ってきた移行国研究者との協力関係を最大限に活用して、ハンガリーとロシア連邦を対象とした画期的な現地調査を組織・実行し、当該学術領域においてパイオニア的な研究成果を生み出したいと企図したのである。

2. 研究の目的

本研究プロジェクトは、ハンガリー及びロシアを主要研究対象国として、旧社会主義移行経済諸国に進出した外国資本や多国籍企業とホスト国経済資源(人的資本や地元企業)の相互リンケージの形態と水準を、実証的に解明すると共に、その研究成果に基づいて、ホスト国における外資系企業の定着と当該国国民経済システムとのより緊密かつ適切な産業連関の深化を促進するような諸政策の提言を行うことを目標とした。

3. 研究の方法

(1)本研究プロジェクトは、ハンガリーとロシア連邦を主たる研究対象とするが、これら2カ国では、外国直接投資や多国籍企業の進出方法及びホスト国経済との産業連関の形態や程度に大きな隔たりが存在する。そこで、本研究プロジェクトは、各国の特性に応じた個別のアプローチを採用した。

(2)ハンガリーを対象とした調査研究においては、次の諸点の実証的解明を具体的目標に据えた。即ち、①外資系企業のハンガリー人ホワイトカラー労働者の地位、②多国籍企業現地法人に雇用されたハンガリー人マネージャーの企業内訓練制度や職階システムの実態、③外資系メーカー企業のサブコントラクターに対する要求条件とこれに対する地元企業の反応行動、④多国籍企業から国内企業への技術・知識移転効果、⑤多国籍企業の進出を契機とする産業クラスターの創発と発展、から成る5つの問題点である。これら研究課題の検討に当たっては、プロジェクト独自の企業インタビュー調査及びハンガリー政府から入手した企業レベルの大規模パネルデータを用いた。

(3)一方のロシアについては、①旧国有私有化企業への外国資本参加の程度や形態、②外資経営参画の企業パフォーマンスへの影響、③外資参加企業の執行役員や取締役の選任プロセスの実態、という3つの研究課題への取り組みを目標に掲げた。これらの実証的検証には、2005年及び2009年に実施した企業パネル調査の諸結果を主に用いた。

(4)なお、上記8点の研究課題を検討するに当たっては、産業組織論、組織経済学、多国籍企業論、労働経済学及び企業統治論の理論と実証成果を十分に踏まえ、かつ最も先進的な計量経済学的手法を用いて理論仮説の厳密な検定を行った。

4. 研究成果

(1)研究初年の平成19(2007)年度は、共同研究の基礎となる現地企業調査の準備期間として、次の研究作業を遂行した。即ち、ハンガリーについては、同国政府機関より、国内企業約150,000社を対象とした1998~2005年のパネルデータを獲得し、その解析に着手した。また同国に進出した多国籍企業の現地法人、それらのサブコントラクター企業及び非サブコントラクター企業を対象とする大規模アンケート調査を平成20(2008)年度に実施すべく、2008年2~3月にそのパイロット調査を遂行した。他方のロシアについては、主として2005年上半年期に一橋大学経済研究所とロシア連邦国立大学高等経済院産業市場研究所が共同実施した大規模アンケート調査の諸結果に基づいて、ロシア企業のコーポレートガバナンスに対する外国資本の影響等を実証的に分析した。

(2)続く平成20(2008)年度は、ハンガリーに関しては、2008年春に実施したパイロット調査の結果を踏まえて同年秋に本調査を行い、その結果、製造業企業191社及びサービス業企業196社から有効回答を得た。一方のロシアについては、上記企業アンケート調査結果の実証分析を更に推し進めた。

(3)平成21(2009)年度は、ハンガリーについては、企業インタビュー調査の結果を用いて、多国籍企業子会社を含むハンガリー企業の所有構造や組織イノベーション活動に関する実証研究を行った。また、国家税務局提供の大規模企業パネルデータを用いた産業クラスターに関する実証研究も同時並行的に進めた。ロシアについては、これまでの実証研究の成果を集約した英語論文集*Organization and Development of Russian Business: A Firm-Level Analysis*を、Palgrave Macmillan社から刊行した。

(4)最終年度の平成22(2010)年度を通じて、

ハンガリーについては、外国直接投資の技術・知識移転効果と産業クラスターの形成・発展に関する研究を進め、ロシアについては、会社機関の構造と決定要因、経営者交代の決定要因、統治構造と企業生存確率の因果関係という視点から、外国投資及び外国人投資家の役割を実証的に検証した。その成果として同年度中に、雑誌論文6点、図書所有論文1点、図書1点を発表した上、国内・海外の重要研究集会で、年度合計6回の研究報告を行った。

(5)以上の通り、本研究プロジェクトは、当初掲げた研究目標を首尾よく達成し、その結果として、合計30件を超える雑誌論文、図書所有論文及び学術図書を発表し、19件に及ぶ口頭での研究発表を実現した。これら研究成果に対する国内及び国際的評価の高さは、移行経済論、企業金融論、多国籍企業論の分野における査読付有力学術誌及び有力出版社から刊行された学術図書に掲載された事実が如実に物語っている。とりわけ、ハンガリーの産業クラスター及びロシアの会社機関に関するマイクロデータを用いた実証分析は、この分野のパイオニア的研究業績として広く認知されている。これらの分野における今後の発展が大いに期待される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計27件)

- ① Iwasaki, I., Szanyi, M., Csizmadia, P., Illéssy, M. and Makó, Cs., “Privatization, Foreign Acquisition, and Firm Performance: A New Empirical Methodology and its Application to Hungary,” *European Journal of Comparative Economics*, 査読有, 7(2), 2010, pp. 307-343.
- ② Abe, N. and Iwasaki, I., “Organisational Culture and Corporate Governance in Russia: A Study of Managerial Turnover,” *Post-Communist Economies*, 査読有, 22(4), 2010, pp. 449-470.
- ③ Lengyel, B., Iwasaki, I. and Szanyi, M., “Industry Cluster and Regional Economic Growth: Evidence from Hungary,” *Hitotsubashi Journal of Economics*, 査読無, 51(2), 2010, pp. 149-167.
- ④ 岩崎一郎「ロシア企業の取締役会構成：株式会社のマイクロ実証分析」『経済研究』査読有, 61(4), 2010年, pp. 358-379.
- ⑤ 岩崎一郎「ロシアの企業監査体制：株式会社のマイクロ実証分析」『月刊監査研究』査読無, 36(9), 2010年, pp. 23-52.
- ⑥ Iwasaki, I. and Sukanuma, K., “EU Enlargement and Foreign Direct Investment into Transition Economies Revisited,” *Transnational Corporations*, 査読有, 18(3), 2009, pp. 27-57.
- ⑦ 岩崎一郎「国家所有・私有化・企業再建：ハンガリー企業の実証分析」『経済研究』査読有, 60(1), 2009年, pp. 29-46.
- ⑧ Szanyi, M., Csizmadia, P., Illéssy, M., Iwasaki, I. and Makó Cs., A gazdasági tevékenység sűrűsödési pontjainak (klaszterek) vizsgálata. *Statisztikai Szemle*, 査読有, 87(9), 2009, 921-936 o.
- ⑨ Iwasaki, I., “The Determinants of Board Composition in A Transforming Economy: Evidence from Russia,” *Journal of Corporate Finance*, 査読有, 14(5), 2008, pp. 532-549.
- ⑩ Iwasaki, I., “Enterprise Reform and Corporate Governance in Russia: A Quantitative Survey,” *Journal of Economic Surveys*, 査読有, 21(5), 2007, pp. 849-902.

[学会発表] (計19件)

- ① Iwasaki, I. “Economic Transition, Firm Organization, and Internal Control: Determinants of Audit Structure in Russian Firms,” EBRD Conference on Diversification of the Russian Economy, February 3, 2011, European Bank for Reconstruction and Development (London, England).
- ② Iwasaki, I. “The Concentric-Circle Model of FDI Spillover Effects: Estimation Using Hungarian Panel Data,” EACES (European Association for Comparative Economic Studies) the 11th Bi-annual Conference “Comparing Responses to Global Instability,” August 27, 2010, Dorpad Conference Center (Tartu, Estonia).
- ③ Iwasaki, I. “Double-Edged Sword: Government Directorship and Firm Behavior in Russia,” ICCEES VIII World Congress, International Council for Central and East European Studies, July 27, 2010, Stockholm City Conference Center (Stockholm, Sweden).
- ④ 岩崎一郎「ハンガリーへの外国直接投資

と国内企業の輸出行動」, 比較経済体制学会第 50 回全国大会, 2010 年 6 月 6 日, 大阪市立大学(大阪市).

- ⑤ Iwasaki, I. “The Concentric-Circle Structure of FDI Productivity Spillovers: The Case of Manufacturing and Business Service Sectors in Hungary,” The 3rd International Service and Outsourcing Conference, Hungarian Service and Outsourcing Association, October 9, 2009, Mercure Budapest Buda Hotel (Budapest, Hungary).
- ⑥ Iwasaki, I. “Hungarian Managers in Multinationals: An Outlook,” The International Conference on Globalization and Local Development, School on Local Development, October 10, 2008, University of Trento (Trento, Italy).

[図書] (計 6 件)

- ① 岩崎一郎・鈴木拓, ミネルヴァ書房, 『比較経済分析: 市場経済化と国家の役割』, 2010 年, xvii+349 pp.
- ② Dolgopyatova, T. G., Iwasaki, I. and Yakovlev, A. A., eds., Palgrave Macmillan, *Organization and Development of Russian Business: A Firm-Level Analysis*, 2009, xv+326 pp.
- ③ 池本修一・岩崎一郎・杉浦史和 編著, 文眞堂, 『グローバリゼーションと体制移行の経済学』, 2008 年, iv+270 pp.
- ④ Долгопятова, Т. Г., Ивасаки, И., Яковлев, А. А., ред., Издательский дом ГУ-ВШЭ, Российская корпорация: внутренняя организация, внешние взаимодействия, перспективы развития, 2007, 542 с.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岩崎 一郎 (IWASAKI ICHIRO)
一橋大学・経済研究所・教授
研究者番号: 70323904

(2) 研究分担者

該当無し

(3) 連携研究者

該当無し

(4) 海外研究協力者

<ハンガリー>

サニ・ミクロシュ (SZANYI MIKLOS)
ハンガリー科学アカデミー・世界経済研究所・主任研究員 兼 国立デブレツェン大学・経営・経済学部・教授

マコー・チャバ (MAKO CSABA)
ハンガリー科学アカデミー・社会学研究所・研究主幹

チズマディア・ペーテル (CSIZMADIA PETER)
ハンガリー科学アカデミー・社会学研究所・研究主幹

<ロシア連邦>

アンドレイ・ヤコブレフ (ANDREI YAKOVLEV)
国立大学高等経済院・副学長

タチアーナ・ドルゴピヤートヴァ (TATIANA DOLGOPYATOVA)
国立大学高等経済院・産業市場研究所・教授

スベトラーナ・アブダシェヴァ (SVETLANA AVDASHEVA)
国立大学高等経済院・経済学部・教授